

夫と妻のパワーバランス

◇ 夫婦喧嘩はカウンセラーが食う

八巻 秀 (東京カウンセリングセンター)

「家内は心の病気なんでしょう？ なぜ私が必要があるんでしょうか？」

友子さん(仮名)のご主人は、私をギロリとにらみながら問いかけてきました。

「いや、奥さんがご家庭ではどんな様子なのか伺いたいと思ひまして……」

友子さんがカウンセリングに訪れたのは一か月前。過食癖があるということで、夫婦面接を始めたところでした。

「夕食後に、気づくと一人でさらに食べているんです。止めても無駄なんで、今はあきらめて見守っています。先生、家内は心の病気なんでしょう？ そうですよね！」

この間、友子さんはずっとうつむき加減。

「心の病かどうかは……ご主人は奥様の状態に困っていらっしやるんですよ？」

「彼女が元気がなくなつたのは困ります」

「どうです、奥様の過食を止めるために協力していただけますか？」

「もちろんです！ 家内が元気になってくれるためなら何でもやりますよ！」

「それを聞いて安心しました。では……」

私は次の課題を出しました。二週間に一回のペースで夫婦面接に来ること。毎日、夕食後、三十分間、奥さんの手を握って夫婦の対話の時間にするということ。

「えっ!? そんなことで家内の過食は治るんですか？」

「わかりませんが、やってみる価値はあると思います。あつ、忘れてました。その三十分間は、ご主人はできるだけ奥様の話を聴いてあげること。聴くことに徹すること。奥様が元気を取り戻す可能性は高いと思いますよ。難しいですか？」

「いや、そのくらい大丈夫ですよ。早速やってみましょう！」

ご主人の方は意気揚々と、友子さんは少し明るい表情になって帰っていきました。二週間後、心なしかご主人の迫力はパワーダウンしたようです。

「おかげさまで調子はいいです。主人が私の話を聞いてくれるようになったので、気分がスッキリしますし、以前より主人に言いたいことが言えている感じがです」

と友子さんは前回よりも堂々とした感じで話します。ご主人は神妙な面持ちで、

「いやあ、三十分とはいえ、聞くに徹するって難しいですね。もう勘弁して欲しいです」「それはあなたは私に治って欲しくないってこと？」



「そうは言っていないでしょう。先生の課題はもう勘弁して欲しいってことだよ！」

「じゃ、私の話を聞くのがイヤってことね！」

「そうじゃないって！」

面接室で夫婦は大バトルです。二人が少し落ち着いたところで、私はたずねました。

「夫婦ゲンカはいつ以来ですか？」

友子さんはハツとした表情をして、

「……何年ぶりだろう？ 最近はどこかで『もうしようがない』と思ってあきらめてしまっ
て、ケンカすることを避けていました。……あきらめなくて怖いですね」

としみじみ話す友子さん。ご主人は、

「そう、あきらめちゃいけないんだよ、何事も」

「何言っているの！ 続けることをあきらめようとしたのはあなたじゃないの！」

「そんなことないよ！……いいですよ、続ければいいんですよ！」

「何よ、その言い方は！」

と再び夫婦ゲンカが始まりました。

その数年ぶりの夫婦ゲンカを見つめながら、少しずつ夫婦のパワーバランスがとれてき
ていて、生き生きと対話し始めているのをカウンセラーは肌で感じていました。

